

「野原開拓之碑」

岡山県新見市神郷

岡山県では、1945（昭和20）年から57年にかけて、55の開拓農協が設立された（「岡山県戦後開拓史」78年発行）。

県北西部に位置する新見市は鳥取、広島両県に接し、面積の多くを山林が占めている。人口は約2万7千人。農業はブドウやクリなどが栽培されている。北部の中国山地にある神郷（旧・阿哲郡神郷町）の野原地区は戦後開拓地である。

45年10月から、満州開拓の引揚者、復員者等23戸が入植した。標高510～770mで、雑木が繁茂していた。冬は積雪量が多く、北風が強かった。

48年、自興開拓農業協同組合（以下「開拓農協」）を設立。土地は強酸性の痩せ地で、霜害もあり、農業には条件が悪かった。入植者は開墾のかたわら、山仕事、日雇いに出て現金収入を得た。開墾が進み、作付けしても収穫がなく、離農者が続出した。

土壌を改良して種々の作物を栽培したが、収穫量は少なかった。59年に酪農、65年には造林用苗木や美濃早生ダイコンの栽培を取り入れ、営農が安定してきた。

開拓行政の一般行政移行に伴い、開拓農協は2年に解散し、新たに野原部落を結成した。残ったのは15戸だったが、経営規模は大きかった。

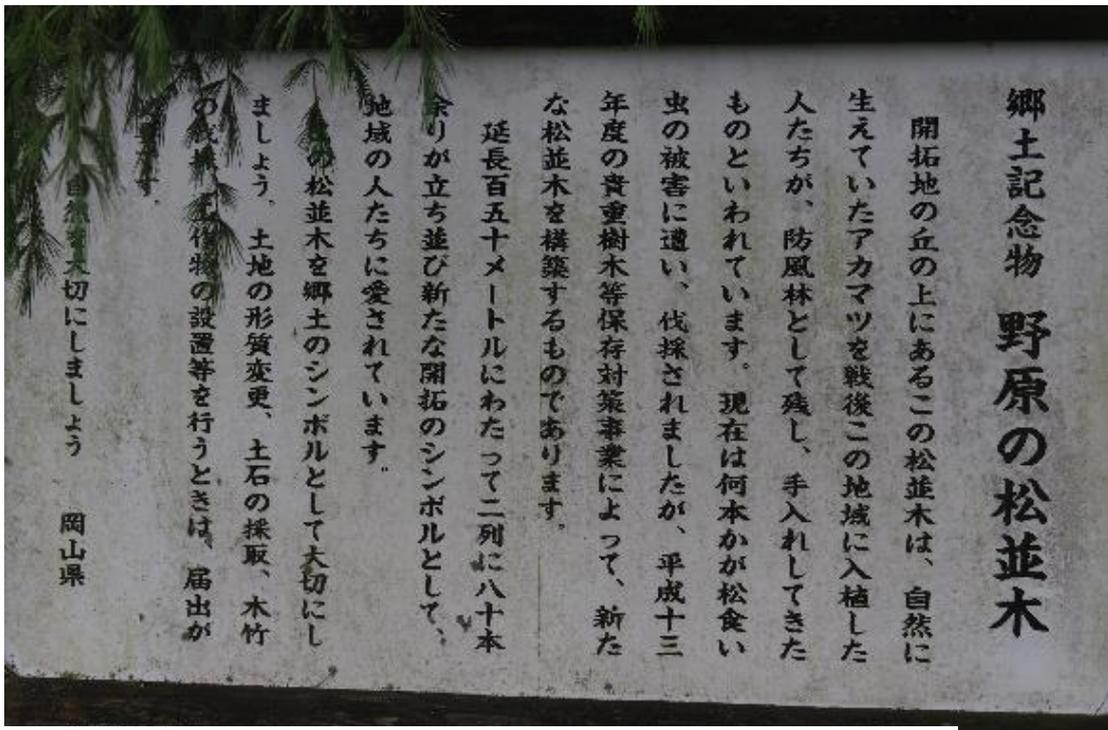
開拓地の台地に、松並木と大きな石碑がある。松並木は、県が78年に「郷土記念物」に指定。自然に生えていたアカマツを、入植者が防風林として残し、手入れしてきたもので、開拓の象徴となっている。

石碑は、開拓農協の解散を機に開拓の成功を記念して72年に建立されたもので、碑銘は「野原開拓之碑」。裏面には、碑文と入植者の氏名が刻まれている。

碑文には「不毛ノ原野ニ入植シ苦節二十五年粒々辛苦ノ末ココニ当初ノ目的デアッタ自立農家ノ達成ヲ見ルニ至ッタ」、「自興開拓農業協同組合ハソノ任ヲ終エタノデコレヲ解散シ一般行政ノ下ニ移行スル 今コノ偉業ヲ永ク記念スルタメ同土相計リ開拓碑ヲ建立スル」などと記されている。

「野原開拓之碑」

- ①調査日 2019年5月28日
- ②所在地 新見市神郷高瀬
- ③地区の沿革 昭和20年10月から、満州開拓の引揚者、復員者等23戸が入植した。標高510～770米で、雑木が繁茂していた。冬は積雪量が多く、北風が強かった。
- ④設置年月日 昭和47年6月
- ⑤設置者 入植者
- ⑥碑名 入植碑
- ⑦碑文（表面） 野原開拓之碑 農林大臣 赤城 宗徳 書
- ⑧碑文（裏面） 野原の開拓は昭和二十一年十月十六日に始まる 不毛の原野に入植し苦節二十五年粒々辛苦の末ここに当初の目的であった自立農家の●成を見るに至った 昭和●十三年九月この事業完遂のために結成した自興開拓農業協同組合はその任を終えたのでこれを解散し一般行政の下に移行する今この偉業を永く記念するため同土相図り開拓碑を建立する
昭和四十七年六月
- ⑨現在の状況 開拓地の防風林「郷土記念物 野原の松並木」内で管理されている。



(碑に隣接し、県が設置した野原の松並木の看板)

